

市立札幌病院における新型コロナウイルス患者の対応状況について

平素より市立札幌病院の運営に多大なるご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

当院では第一種及び第二種両方の指定を受けた感染症指定医療機関としての役割を果たすため、本年1月より新型コロナウイルス感染症における重症患者及び中等症患者の受入れを積極的に行い、「チーム市立札幌病院」として職員一丸となって、入院治療などに対応してまいりました。

新型コロナウイルス感染症の感染状況については今後も予断を許さないところではありますが、当院では札幌市保健所などとも緊密に連携しながら、引き続き患者の受入れを進めていくとともに、総合周産期母子医療センターや精神科救急・身体合併症に係る医療など、24時間365日止めることができない政策医療などについても、当院が担うべき役割をしっかりと受け止め、その責務を果たしてまいります。

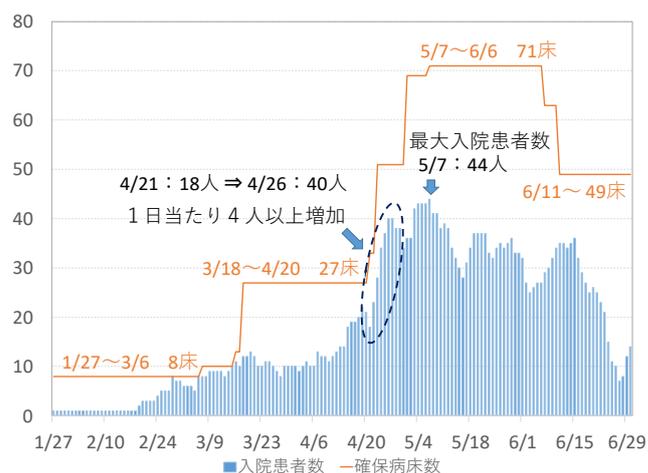
1 新型コロナウイルス感染症の診療体制

- ・感染症病棟や救命救急センター等を活用。段階的に受入病床を拡充し、最大時71床。
- ・令和2年1月27日から6月30日までの間、186名の新型コロナウイルス感染症患者を受入れ。

2 一般医療の診療体制

令和2年2月以降、救急及び入院の受入れを一部制限していたが、7月3日以降は通常どおりの診療体制となっている。

入院患者数と確保病床数の推移（市立札幌病院）



3 院内感染防止のための取組

院内感染の防止のため、まず、病院内に立ち入る全ての皆様にマスクの着用や手指消毒といった標準予防策の徹底をお願いするとともに、受付ホールやカウンター窓口での適切な距離の確保、ビニールカーテンの設置などにより、飛沫感染の防止につとめています。

また、外来患者に対し、受付での簡易的な問診等により発熱や咳などの症状の有無を確認し、症状等が把握された場合は、各診療科での診察を行う前に、胸部CT検査などを行い、新型コロナウイルス感染症の疑いの有無を確認する「発熱者一次診察」を実施しています（令和2年2月28日から6月30日までの間、262名に対応し、うち陽性者8名）。

さらに、新型コロナウイルス感染症患者あるいはその疑いのある患者については、一般患者との動線を明確に分けるとともに、処置を行う職員は、N95マスクや顔全体を覆うフェイスシールド、頭皮キャップ、医療用ガウン、手袋を装着するなど万全の態勢で臨んでいます。

今後も、患者様の受入れに支障をきたすことのないよう、院内感染防止の徹底を図ってまいります。